環境報告書 2025
Environmental Report 2025

国立大学法人
旭川医科大学
National University Corporation
Asahikawa Medical University

ごあいさつ

旭川医科大学環境報告書をお手に取っていただき、心より感謝申し上げます。

本学は、1973年に誕生し、今年で開学52周年を迎えました。地域医療を担う人材育成という大学設置の原点を踏まえ、教育・研究・医療等のレベルをさらに上げ、意欲ある医療人を育成し、社会貢献等を果たすことを基本目標とし、歩みを続けております。

本学の魅力のひとつは本学が置かれている自然環境のすばらしさであり、開学50周年を期にあらたに制定した本学の理念の中にも明記いたしました。大雪山系と十勝岳連峰を望む自然豊かな環境は本学で学び、医師・看護職者として研鑽を積む人材が高い人間性と倫理観を涵養する上で大きな影響を与えるものであると信じております。

このように自然に恵まれた旭川市および北海道でも地球温暖化の影響が徐々に現れております。真夏日や猛暑日が増加しているだけでなく、冬期の気候も以前とはかなり異なる様相を示しており、今後、これらが生活環境やインフラに対して大きなインパクトを与える可能性が懸念されます。また、農業分野では高温による作物の品質低下や収穫時期の変化が現実に起こっており漁業分野においても海水温の上昇により回遊魚の分布が変化し、漁獲量が減少したり漁場が移動したりする影響も出ています。さらに、気候変動は野生動物の生態系にも深刻な影響を及ぼしており、特にヒグマやエゾシカなどの行動範囲の拡大や出没頻度の変化が地域社会に深刻な課題をもたらしています。

気候変動の影響は医療現場にもおよび、熱中症や脱水症状の患者が増加することで医療資源への負担が高まるとともに、高齢者や基礎疾患を持つ方々にとっては、命に関わるリスクも増しており、地域医療体制の強化が求められています。環境問題は、医療機関としての責務を超えて、私たち全員が取り組むべき重要な課題であり、SDGsの実現に向けた様々な地球環境保護への取組は、将来の世代に健康で快適な生活を引き継ぐために欠かせないものと考えています。

本学では環境配慮の方針として基本理念と基本方針を掲げ、職員及び学生などと協力して環境に配慮した取り組みを進め、この環境報告書では2024年度の本学での事業活動に伴う総エネルギー消費量や温室効果ガス排出量などの現状をお示しするとともに、環境保全に関する取り組みを紹介しています。

これからも旭川医科大学は、医療と環境の両面から社会に貢献し、次世代に誇れる持続可能な未来を目指して努力を続けてまいります。引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

旭川医科大学長
西川　祐司

Contents

ごあいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・01
環境配慮の方針・・・・・・・・・・・・・02
大学の概要／組織機構図・・・・・・・・・03
大学位置図・・・・・・・・・・・・・・・04
大学配置図／本報告書の対象範囲・・・・05
環境マネジメント体制・・・・・・・・・・06
エネルギー使用量の実績・・・・・・・・・07
温室効果ガス排出量の実績・・・・・・・・09
資源循環・・・・・・・・・・・・・・・・11

環境配慮の方針

■基本理念

旭川医科大学は、自然豊かな北海道の北部・東部の中心にあり、その教育・研究及び診療などに伴う全ての活動において、人と自然が調和した社会環境の保全・改善のために配慮が必要と考え、常に環境に配慮した取り組みを目指します。

■基本方針

旭川医科大学は、基本理念を実現するために以下のことについて実施します。

1．本学における教育、研究及び診療において、人と自然が調和した社会の環境を保全・改善することに努めます。

2．地球環境の保全・改善のため、地域社会との連携を強め環境問題の解決に努めます。

3．環境関連法規、条例及び協定を遵守すると共に環境に与える負荷の低減に努めます。

4．この環境方針を達成するために、職員及び学生などと協力して環境に配慮した取り組みの実施体制を確立するとともに、環境目標を設定し、広く公開します。

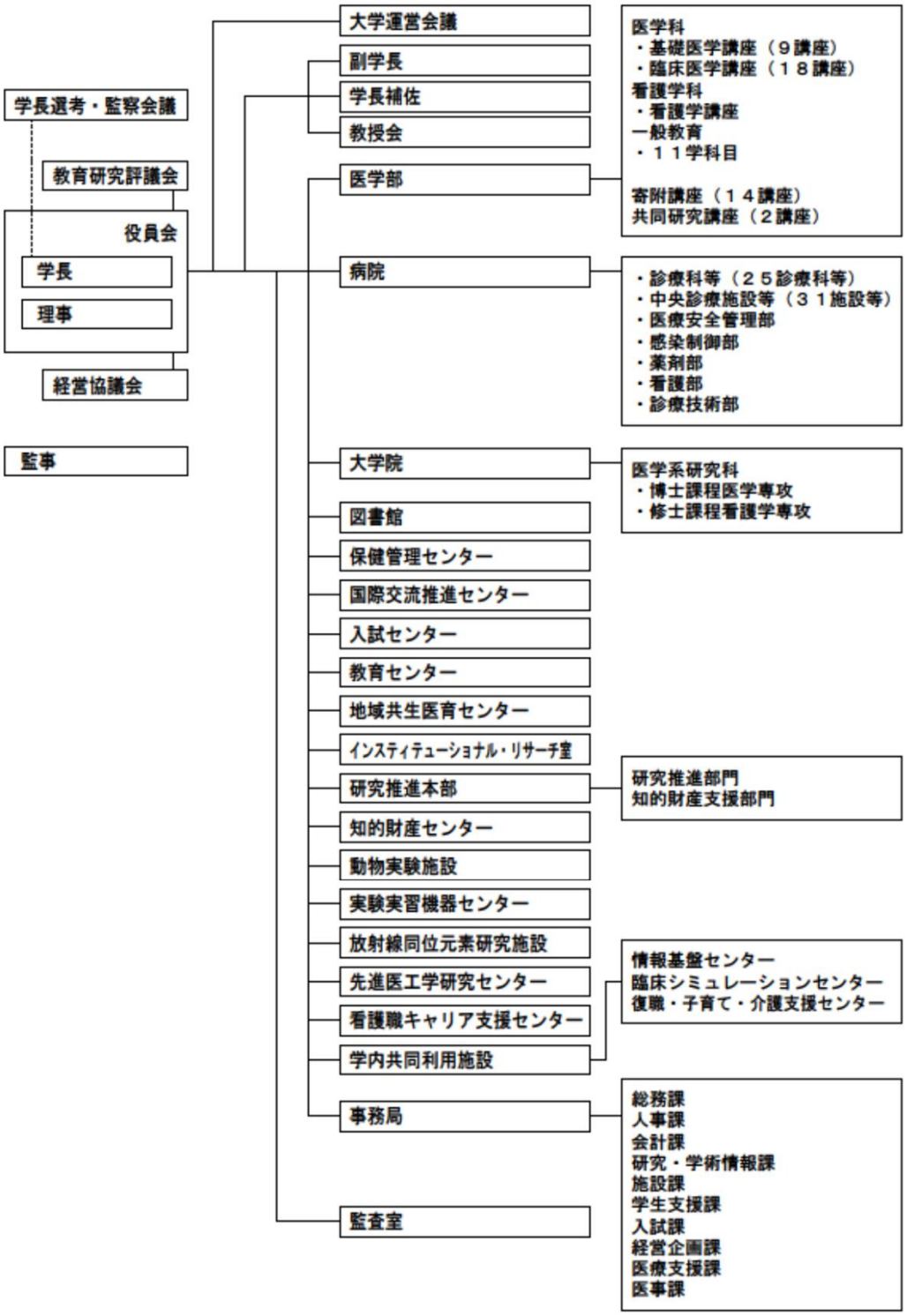
大学の概要

大学名　国立大学法人旭川医科大学
所在地　〒078-8510
北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号
設　立　1973年（昭和48年）
学　長　西川　祐司

※2025年（令和7年）5月1日現在

区　分	人数
役　員	7
教　職　員	1，450
医　学　部　生	848
大　学　院　生	105
計	2，410

組織機構図



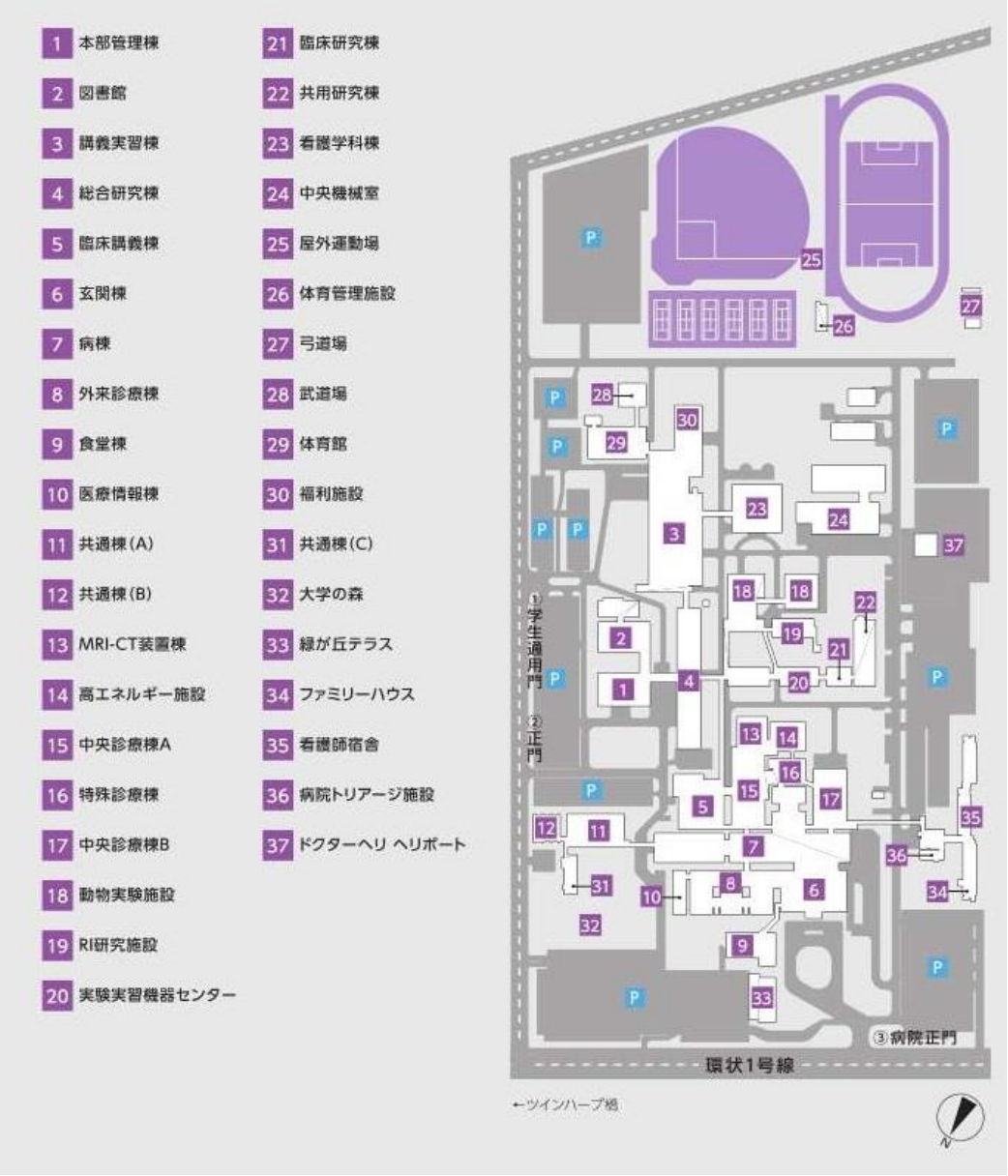
大学位置図

交通案内

JR	
札幌駅→旭川駅	所要時間／約1時間25分
新千歳空港駅→札幌駅→旭川駅	所要時間／約2時間20分
旭川電気軌道バス［旭川駅前（緑橋通り）27番のりばから乗車］	
71番 医大病院前行（緑東大橋経由）	所要時間／約35分
旭川空港からのバス［旭川電気軌道・ふらのバス］	
空港乗車→旭川医大前下車	所要時間／約30分
タクシー	
旭川駅→旭川医大前	所要時間／約15分
旭川空港→旭川医大前	所要時間／約20分

大学配置図

■建物配置図



本報告書の対象範囲

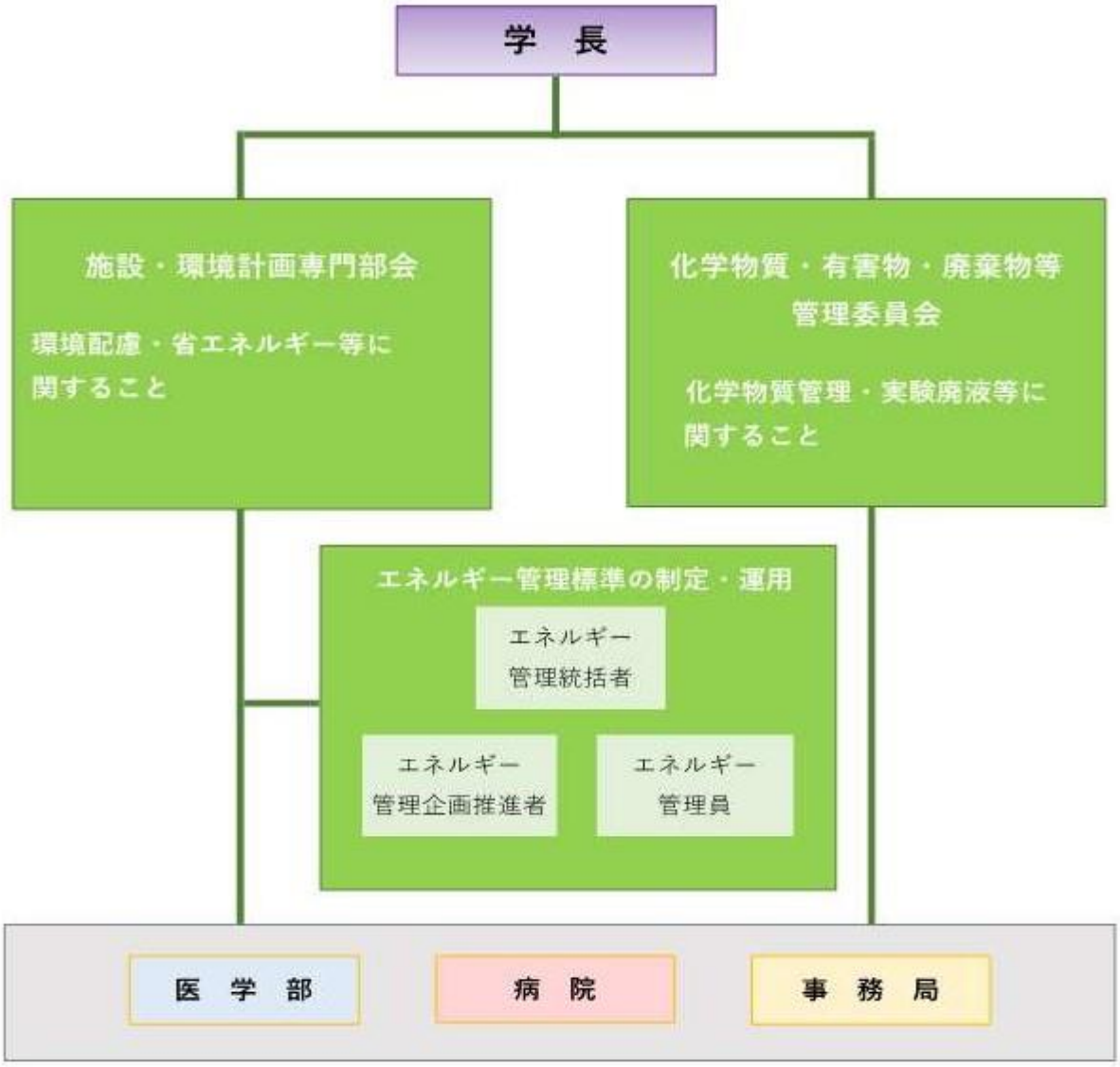
■対象組織　旭川医科大学の全組織
（学部、大学院、病院、学内共同利用施設及び事務局など）

■対象期間　令和6年度（2024年4月～2025年3月）

■対象団地　緑が丘東団地

■建物延べ床面積　122,464㎡

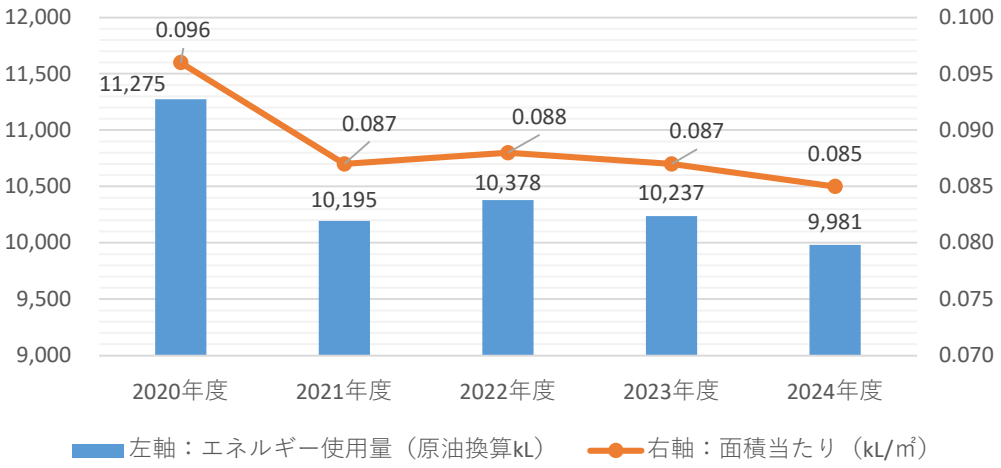
環境マネジメント体制


学　長
施設・環境計画専門部会
環境配慮・省エネルギー等に関すること
化学物質・有害物・廃棄物等管理委員会
化学物質管理・実験廃液等に関すること
エネルギー管理標準の制定・運用
エネルギー管理統括者
エネルギー管理企画推進者
エネルギー管理員
医　学　部
病　院
事　務　局

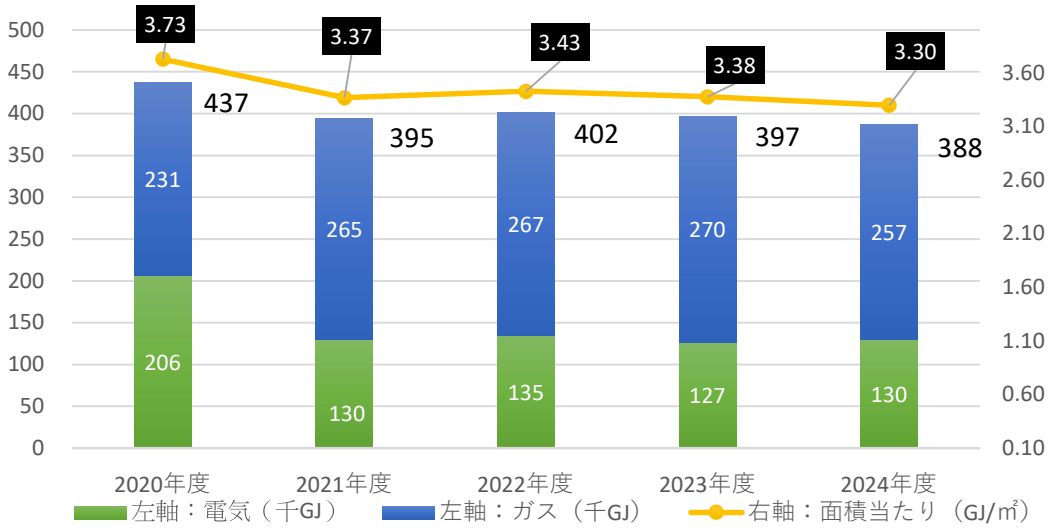
エネルギー使用量の実績

■エネルギー使用量（原油換算）

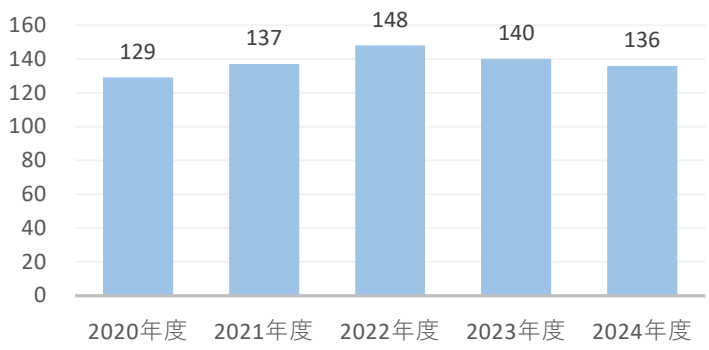
2024年度における旭川医科大学のエネルギー使用量は9,981kL（前年度比97.5％）でした。なお、エネルギー使用量の約80%は病院が占めています。



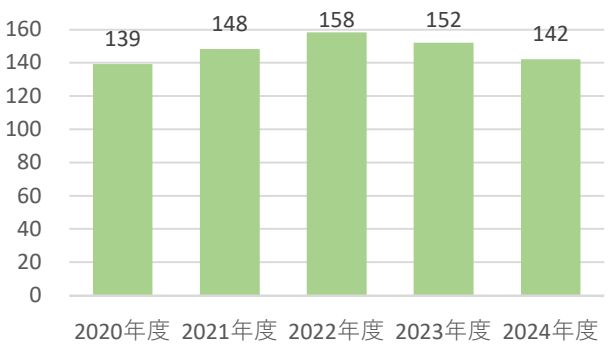
■エネルギー内訳（熱量）



■水資源使用量（千立米）



■下水道使用量（千立米）



■省エネルギーに関する取り組み

本学は、原油換算の総エネルギー使用量が3,000kLを超えるため、省エネルギー法により第一種エネルギー管理指定工場に指定されています。本学では「エネルギー管理標準」を作成し室内の照度、エレベーター等の運転時間、空調機の温度管理などを定め運用を行っています。

本学ウェブサイトでは、リアルタイムで電力を表示する見える化を実施するとともに電力使用量、電気料金、ガス使用量、ガス料金、上下水道使用量、上下水道料金を月毎と年度の累計を前年度と比較することができるようにしています。

また、日常の取り組みとして照明のこまめな入切り、空調・換気の不在時停止の徹底等を大学構成員に省エネ行動の呼びかけを行っています。

■2024年度の主な取り組み

本学では2021年度から高効率大型機器を導入することで省エネルギーを行う管理一体型ESCO事業を開始し、光熱水費及びエネルギー使用量の削減に取り組んでいます。

2024年度のESCO事業は、ロシアによるウクライナ軍事進攻による国際情勢の不安定化に伴うエネルギー単価の高騰もあり、自家発電機の運転の見直しを行い、光熱水費の抑制に努めました。

管理一体型ESCO事業概要

①コジェネレーションシステムの運用

CGS（発電量1,000kW）は、本学の電気供給量の40％を発電し、運転による排熱は、病院の空調や給湯熱源として最大限に活用しています。

②高効率貫流式ボイラの運用

小型貫流ボイラ（2.5ton/h×9基）による台数制御により負荷に応じた最適な運転を行っています。

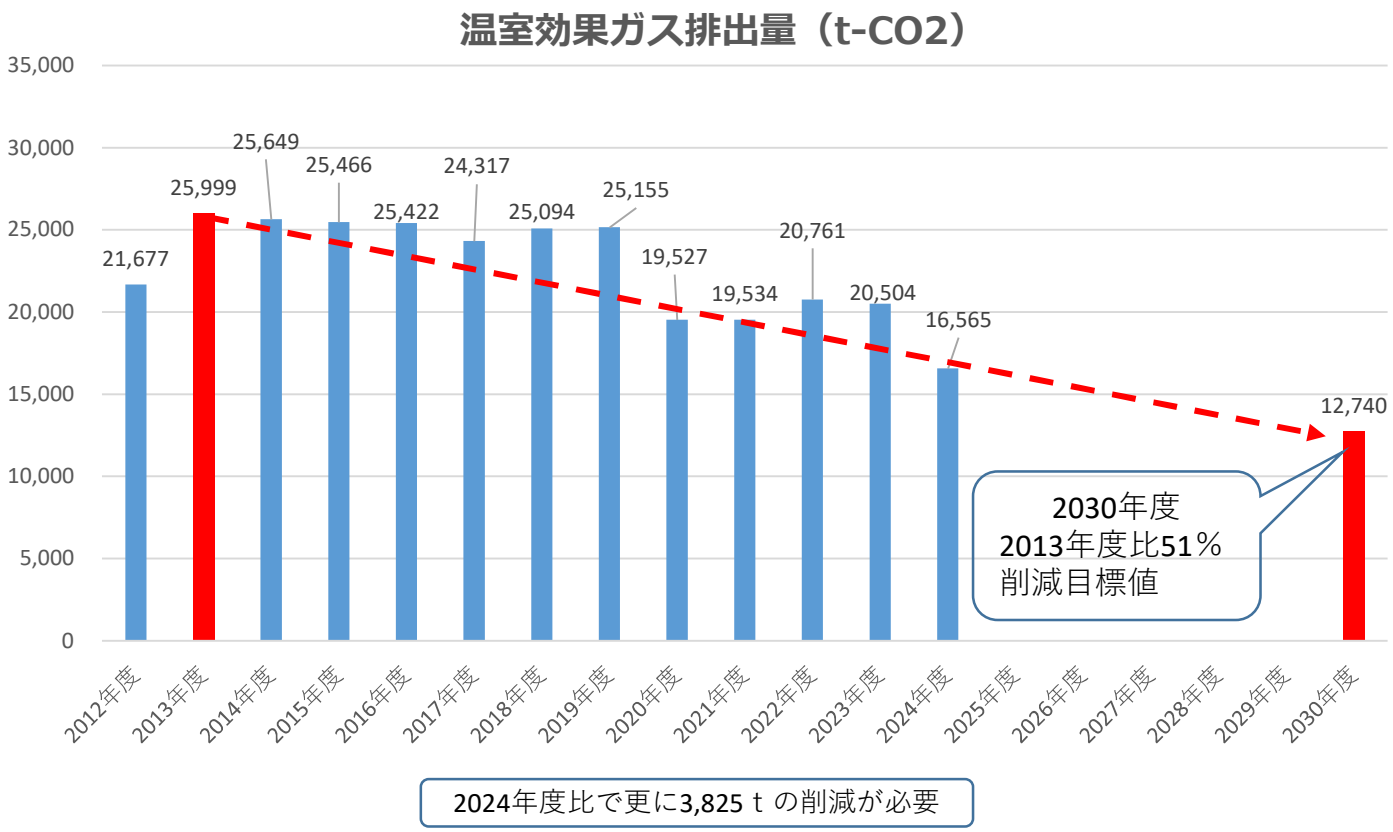
③高効率水冷チラーの運用

病院の冷熱源として、高効率水冷チラー（電気ヒートポンプ式150RT×3基）による高効率運転で省エネルギーの向上を図っています。

温室効果ガス排出量の実績

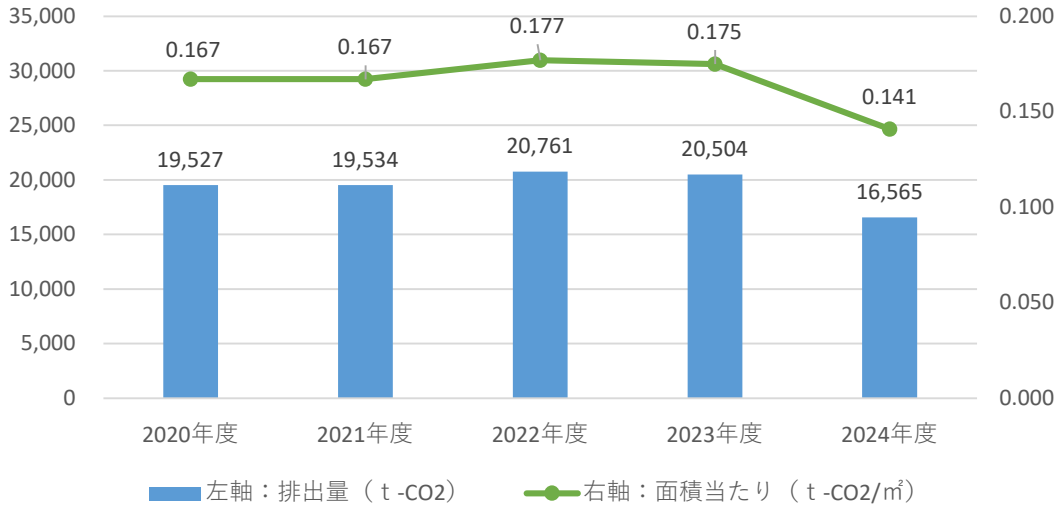
2024年度は前年度比80.8%となりました。これは、本学が購入している電力の温室効果ガス排出係数が2023年度の0.000614t-CO2/kWhから2024年度は0.000349t-CO2/kWhになったことが主な要因です。また、2013年度比36.3%削減となりました。引き続き政府が掲げた温室効果ガス削減目標に近づくよう、エネルギー使用量を減らし、再生可能エネルギーの利用を増やすことを見据えたキャンパス整備計画を進めていきます。

政府の「地球温暖化対策計画」2021年10月閣議決定
我が国の温室効果ガス削減目標
2030年度までに2013年度比で51%削減（業務部門）



2024年度比で更に3,825ｔの削減が必要

■過去5年間の温室効果ガス排出量



■グリーン購入の促進

本学では、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）に基づき、毎年度その調達実施に向けての方針を決定し、環境負荷低減に資する環境物品等の調達に努めています。2024年度における特定調達物品の調達率は119品目のうち117品目において100％になっています。

分　野	適用（品目）	総調達量	特定品目調達量	特定品目調達率（％）
紙類	コピー用紙等	71,527kg	71,527kg	100.0
文具類	シャープペンシル等	194,350点	192,350点	99.0
オフィス家具類	いす等	245台	245台	100.0
ＯＡ機器等	プリンター、電子計算機等	901台	901台	100.0
	記録用メディア、電池、トナー、インクカートリッジ等	2,290個	2,290個	100.0
移動電話	携帯電話等	565台	565台	100.0
家電製品	電気冷蔵庫等	26台	26台	100.0
照明	蛍光灯照明器具等	69本	69本	100.0
制服・作業服	制服等	2,933着	2,933着	100.0
インテリア・寝装寝具等	カーテン等	112点	112点	100.0
その他繊維製品	テント・幕等	9点	9点	100.0
災害備蓄用品	ペットボトル飲料水等	3,102個	3,102個	100.0
ゴミ袋等	プラスチック製ごみ袋	1,182,500枚	1,182,500枚	100.0
役務	印刷等	3,319件	3,281件	98.9

■温室効果ガス削減の実行計画

本学は2024年度に温室効果ガスの排出の削減等の実行計画を策定し取組みをすすめています。
https://www.asahikawa-med.ac.jp/uploads/files/portal/guide/data/facility/greenhouse%20gas%20plan.pdf

1.再生可能エネルギーの最大限に向けた取組
（1）太陽光発電の最大限の導入
2.建築物の建築、管理等に当たっての取組
（1）建築物における省エネルギー対策の徹底
（2）建築物の建築等に当たっての環境配慮の実施
（3）新しい技術の率先的導入
（4）2050年カーボンニュートラルを見据えた取組
3.財やサービスの購入・使用に当たっての取組
（1）電動車の導入
（2）LED照明の導入
（3）再生可能エネルギー電力調達の推進
（4）省エネルギー型機器の導入等
4.その他の事務・事業に当たっての温室効果ガスの排出の削減等への配慮
（1）廃棄物の3R＋Renewable
（2）樹木の整備・保全の推進
（3）本学主催等のイベントの実施に伴う温室効果ガスの排出等の削減
5.ワークライフバランスの確保・職員に対する研修等
（1）ワークライフバランスの確保
（2）教職員に対する地球温暖化対策に関する研修の機会の提供、情報提供
（3）教職員に対する脱炭素型ライフスタイルの奨励

資源循環

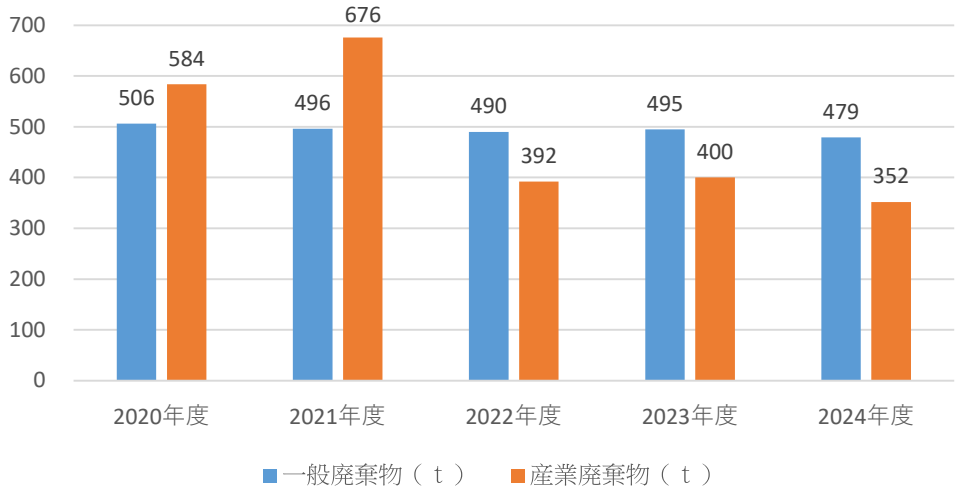
■廃棄物の削減への取り組み

本学では、廃棄物等の分別と回収方法を徹底することにより、一般廃棄物については７品目中、５品目を資源化ごみとして処分をしています。

リサイクル可能な廃棄物（缶、ペットボトル、新聞、雑誌、段ボール）についてはゴミ袋の色による識別、古紙専用置き場の設置により適切に分別されるよう工夫しています。また、非公開文書については年数回、古紙回収業者が専用で回収し、トイレットペーパーの原料の一部として再利用されています。

廃棄物種別	排出量(kg)	区分
缶	6,923	資源化ゴミ
ペットボトル	11,451	資源化ゴミ
新聞	1,260	資源化ゴミ
雑誌	14,500	資源化ゴミ
段ボール	28,350	資源化ゴミ
可燃ごみ	416,480	非資源化ゴミ
合計	478,964	

■一般廃棄物・産業廃棄物排出量



■化学物質の適正管理と排出量

適正管理

本学では「旭川医科大学化学物質安全管理規程」に基づいて適正な使用及び管理を行うこととしています。
PRTR法（化学物質排出把握管理促進法）に基づく対象化学物質では、取扱量が１ｔ以上となっている特定第一種指定化学物質（キシレン）について、届出を毎年度行っています。

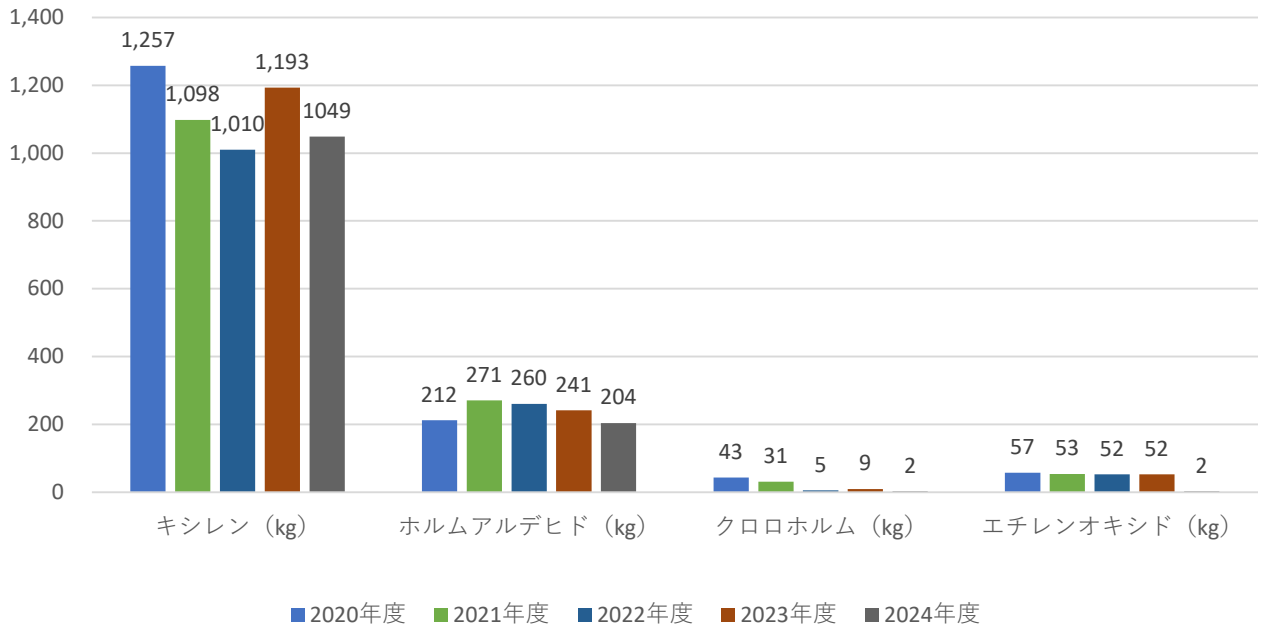
廃液処理

有害廃液は各使用部署で適正に管理保管され、年6回学内で回収し、専門業者へ委託し処理を行っています。2024年度は5,921kgを処理をしました。

排水管理

学内の排出水は、下水道法、水質汚濁防止法に基づき、実験、研究などで発生する廃液の適切な分別、回収などについて指導、注意喚起を行うとととともに、水質分析を行い旭川市へ報告を行っています。2024年度はすべての項目で基準値内となりました。

■主な化学物質の排出量・移動量の合計の推移



■マテリアルバランス（2024年度）

INPUT

総エネルギー使用量

３７１，９７３ GJ

電　力	１３，３１８千ｋW･h
ガ　ス	５，７０７千㎥
水資源	１３５，８７２㎥
紙資源	７１，５２７ｔ
化学物質	１，２８５ｋｇ

旭川医科大学

大学活動

- 学　部
- 病　院
- 事務局

OUTPUT

温室効果ガス排出量

１６，５６５ t-CO2

下水道排水量	１４１，７７８㎥
一般廃棄物	４７９ｔ
産業廃棄物	３５２ｔ
有害廃液量	５，９２１ｋｇ

太陽光発電量

電　力	２５千kW･h

温室効果ガス削減量

温室効果ガス	▲９t-CO2

国立大学法人
旭川医科大学

National University Corporation
Asahikawa Medical University

［編集方針］
この環境報告書は「環境報告ガイドライン2018年版」、「環境報告書の記載事項等の手引き（第3版）」を参考に作成しました。

［発行年月］
2025年9月（次回発行予定日2026年9月）

［編集担当］
旭川医科大学事務局施設課
〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1-1-1
Tel 0166-68-2172
https://www.asahikawa-med.ac.jp

本誌は環境配慮のため冊子印刷は行わず、Webで公表します。